



いせはら生涯学習 ボランティア協会ニュース

第 308 号 2026 年 10 月号

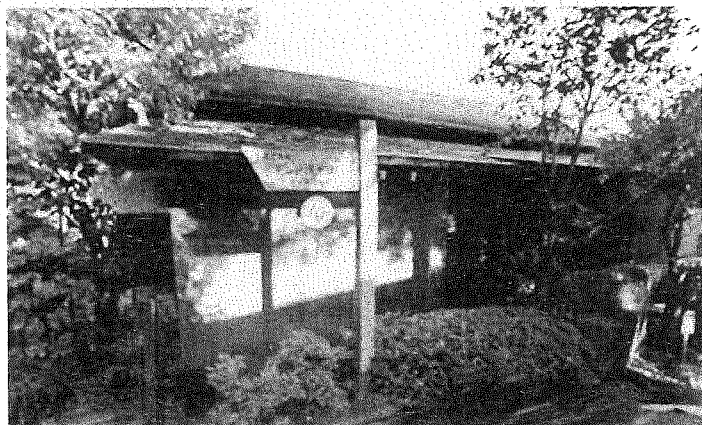
会長 逢坂伸一

丹沢大山山麓野外民族資料館構想

逢坂伸一

かつて、伊勢原タイム(現在休刊中)に掲載していただいた記事のタイトルが「丹沢山麓野外民族資料館構想」でした。我が伊勢原の歴史文化施設計画も進展するだろうとの願いを込めての提言のつもりでしたが、未だに進展していないのが残念でなりません。

先の原稿では、スウェーデンのストックホルム郊外にあるスカンセン野外博物館とヴァーサ博物館を訪れた時の思い出として、似たような施設が大山の麓、伊勢原市を中心に、秦野市や厚木市も含めたエリアにあったらいいのになあ、との思いがありました。



三ノ宮郷土資料館

いくつかの瀟洒な分館風資料館を巡るなどのコースを「いせはら観光ボランティア&ウォーク協会」の皆さんとともに考えることも楽しい時間になりそうです。

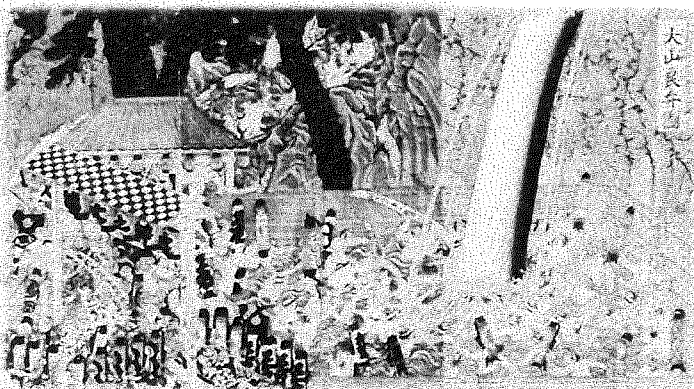
伊勢原大山インターチェンジ付近での歴史文化資料館設置についての運動も行われているの

ですが、これからのまちづくりの基幹事業の一つとして大切なことであると思っております。

大山詣りという他に例を見ない庶民崇拜の姿(ストーリー)が日本遺産として文化庁によって認定され、地域活性化、あるいは観光振興につなげるものとして期待されているのですが、さらに活性化させるためには、既存のマチの姿に満足するだけでは、甚だ心許なく、ほんの一部の思い出話としての未来にしかならないであろうことも危惧されます。

ストックホルム郊外の二つの事例のような広大なスペースとは言わぬものの、大山の麓にふさわしい規模での野外資料館を今こそ建設すべきでしょう。

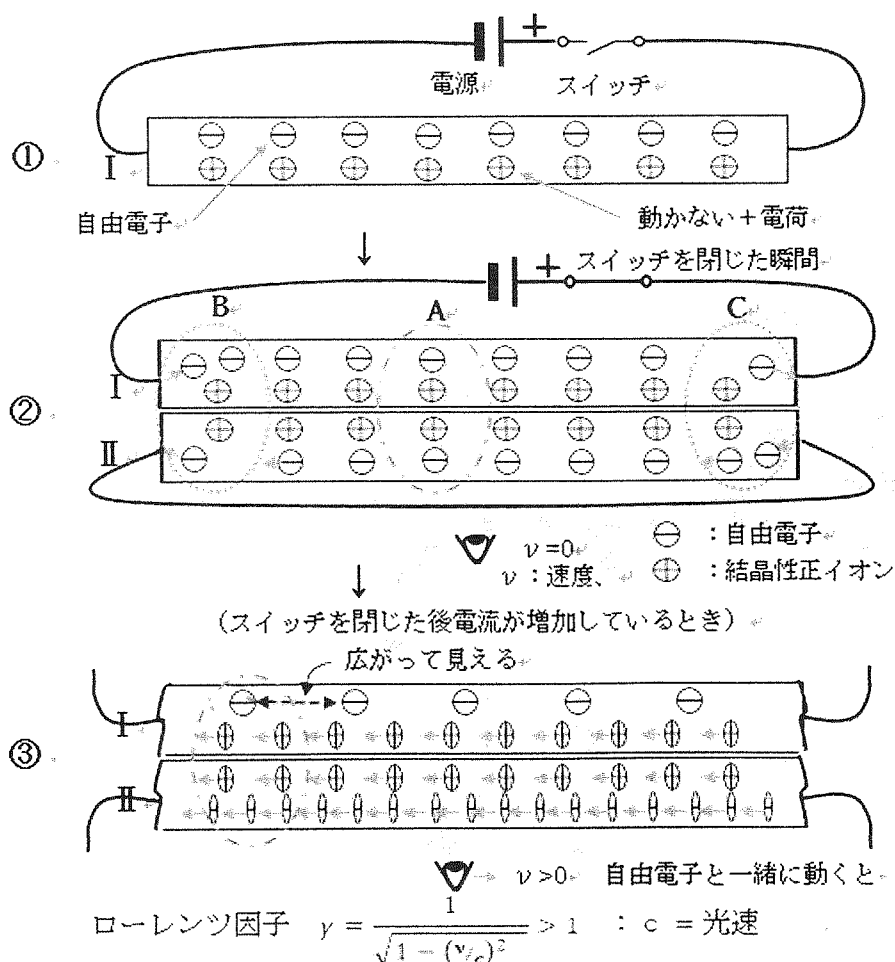
日本が世界からの注目を浴びるような大国になろうとしているように、我が伊勢原市も日本中の人々の心に残るようなまちづくりをみなさんと構築したいと思うところです。



浮世絵 一良弁の滝の賑わい

人里離れた発電所で造られた電力は長い旅路を経て人里に運ばれていろいろな形で便利なエネルギー源として利用されています。発電所では数万V（ボルト）で発電して遠くへ送電するために数十万Vに昇圧し、市街地まで運ばれ変電所や市中の変電器（トランス）で数万Vへ、さらに家庭用では百V迄降下して実際に利用されます。この電圧を上げ下げする装置は変圧器（トランス）と言います。

変圧器で電圧を上下させる原理はなんと相対性原理に基づいています。以下この原理を出来るだけ解かり易く説明したいと思います。図①の電気回路Ⅰのように電源につながれている電線（導線）について考えてみます。導線は銅の場合、金属結晶の内部の1つの銅原子に注目するとマイナス電荷を持つ1個の自由電子と自由にならない残りの（29個の+の電荷を持つ原子核と28個の-電荷の合計）1個の+電荷に相当する部分に分かれます。回路図②は回路①の同種の導線で閉じた回路Ⅱの一部を①に平行させ、スイッチを閉じた瞬間の状態を表します。Bの範囲でⅠの左側から注入された自由電子の密度は今までAの範囲と同じ自由電子密度より過剰になり、電気的反発力でその範囲のⅡの部分では電子がその範囲から逃げようとしします。この現象と反対のことがCの部分で起こりⅡ全体ではⅠの回路と反対方向に電子が動き始めます。回路Ⅰ全体で電子が動き始めて或る程度の時間が経った状態を見てみます。この時この電子の移動速度と同じ速度で動く目でこの電子の状態を見たとき（図③）自由電子の間隔は①の時点より広がり（薄くなり）ます。それ以外の電荷密度が濃くなって見えます。こうして図の点線で囲まれた一定の範囲の電荷の平均が0になろうとして動きます。この自由電子と+電荷の広がり比率はローレンツ因子と言って γ （ガンマ）で表し、1より大きくなります。この現象は相対性理論によって説明されます。このときⅡの回路の自由電子Ⅰの電子と逆方向に流れてゆき、電圧を発生させます。これはⅡの回路に電力の移動が起きたことを意味します。



電子の流れを負電流と言います。

このⅠの回路の電流をいつまでも増加し続けることは出来ません。或る時点でⅠの電流を逆転し、同様の事を繰り返します。これを交番電流（交流）と言います。こうして電力エネルギーをⅠからⅡへ伝えることが出来ます。この装置を変圧器と呼んでいます。変圧器は用途に合わせて電圧を上げたり下げたりして利用されます。実際の変圧器は鉄材（鉄心）を介して効率よく電圧の変換を行っています。実はこれまで説明した電流の変化（自由電子の運動）による現象が形を変えてⅠの電流と鉄心との間、および鉄心とⅡの間で起きています。機会があれば解説したいと思います。

ー続くー (Galileo)

編集部長がお勧めする講座

編集部長 杉本 和彦

今年も9月26日から、第22期いせはら市民大学・楽しい講座が始まります。

また、同じ日に見学する県警最初の殉職者と
言われる祝井巡査の恩に感謝して140年以上も

個人的に供養している事が、この事件が起きた時期になると新聞に載ります。

その碑に近くに住んでいるにも拘わらず、詳しい事が分らなかったです。

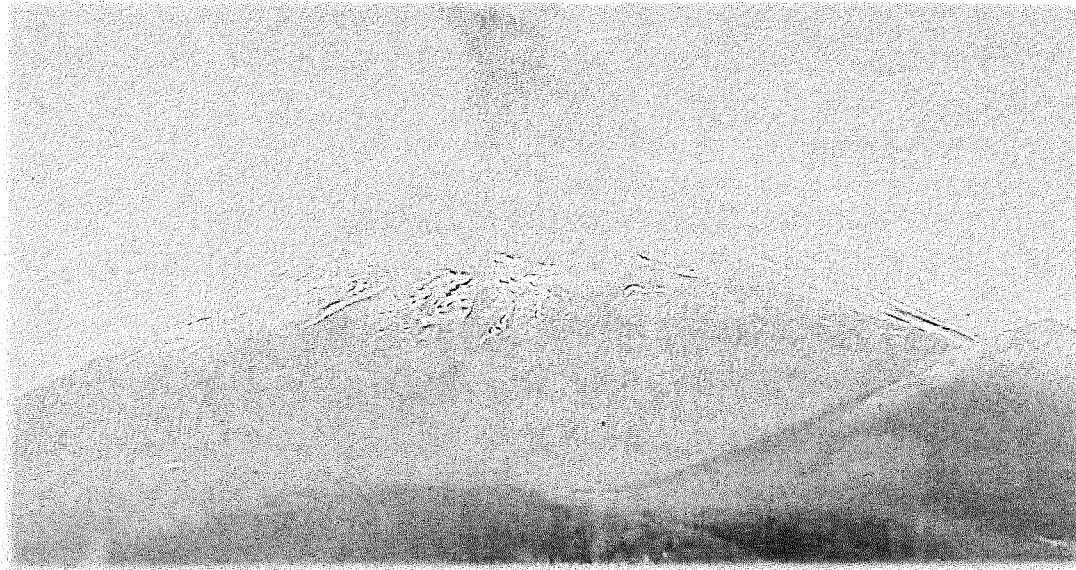
学ボラ仲間から頂いた祝井巡査の子孫が書かれた「百三十年の歳月を経て、あ

る殉職そして―」を読んで更に興味が湧いてきました。新聞を読んでもその背景までは分からない事が講師菅原順子氏により説明されると、うれしくなります。

私たちは、テレビ画面やネットで断片的な情報は得られますが体系的な物は講座でしか得られません。そこで、皆さんにお勧めするのがこの様な講座受講です。断片的な知識が繋がり、物事の道理が良く分かりますよ。



祝井の巡査の墓碑（上粕屋旅籠跡）



富士山噴火想像図

数多くの講座が予定されておりますが、私を受けてみたい講座について、意見を述べたいと思います。当然講座が終わればこのニュースにてご報告は致しますが、たくさんの方に受講して頂きたく聴き処をお知らせしたいと思っております。

まず、1番目は11月7日に開講する「富士山噴火に備える」については前月号にて書きましたが是非受講して欲しいです。講師の相原さんの話は何度聞いても面白いし、為になります。

「溶岩が神奈川県方面に流れたら、何処まで来るのでしょうか？」との質問に対し答えを聞いて思わず“マジか？”と唸ること間違いなしです。

次にお勧めしたいのは、12月25日に開講する「大山小学校の校長室にある青い目の人形見学と県警殉職碑見学」です。

これは、明治時代にアメリカとの友好の証に、お返しに贈られて来た物との事です。今では、間に第2次大戦や火災で残り少なくなっている事になっており、一見の価値のある物です。

100年以上前のかわいらしい人形を見る機会ですので期待が高まります。

第 22 期いせはら市民大学・楽しい講座 一直近の予定

～楽しく・仲間と共に、生き活きと暮すための講座～

第 2 回 講座名 伊勢原の市政を語り市民との対話の講座

日 時 : 10 月 10 日 (土) 13 時 30 分開講

場 所 : 伊勢原市中央公民館 3 階 A 会議室

講 師 : 副市長 大山剛 氏

第 3 回 講座名 生涯学習ボランティア活動の重要性と学ボラの 6 つの活動サークル発表

日 時 : 10 月 17 日 (土) 13 時 30 分開講

場 所 : 伊勢原市中央公民館 3 階 A 会議室

講 師 : 東海大名誉教授 逢坂伸一氏と各サークル代表

第 4 回 講座名 ①富士山噴火に備える ②救命活動の実践

日 時 : 11 月 7 日 (土) 13 時 30 分開講

場 所 : 伊勢原市中央公民館 3 階 A 会議室

講 師 : 市危機管理課 相原博氏 山口剛氏 天野隆史氏

役 員 会 議 予 定 表

No.	月 日		開催曜日	開始時間	行 事 内 容	該当者	場所
1	10	8	第 2 木曜	14:00	事務局会議	該当役員	中央公民館 第 1 学習室
2	10	22	第 4 木曜	13:30	役員会	役員全員	中央公民館 第 2 学習室
3	11	12	第 2 木曜	14:00	事務局会議	該当役員	中央公民館 第 1 学習室
4	11	26	第 4 木曜	13:30	役員会	役員全員	中央公民館 第 2 学習室 (仮)

“編集後記”

市民大学に関する記事原稿を書いていると、“忙しいのにこんな事している場合じゃない”と思うことが多くあります。自治会長の仕事、農協支店の役、その他地域の役に加えて私的な頼まれ事もあると、スケジュール表は空きを探すのが難しい状態が毎月続いています。

このような状況ですが、好きな事でもあり、読者の皆さんに「何らかの知識を届けられることが嬉しい」という思いでやっています。

そこで P2 の「130 年の歳月を経て、ある殉職そして一」の本を貸し出しできます。この本を読んでから、講座に参加してみませんか？貸出希望の方は、下記のアドレスにメールをください。そして、感想の文章を投稿していただくと嬉しいです。

投稿先： 杉本 【kazu-sen@dp.u-netsurf.ne.jp】